



PHOTO



はるくんのために
せかいでたったいっさつの えほん

やっと やっとうまれてくれたね
これからずっとよろしくね

2007年9月10日
パパとママより

ようこそ!あかちゃん



なかえよしを・作 上野紀子・絵

クリエイト・ア・フック





ようこそ！ はるくん
ようこそ！ あかちゃん

なかえよしを・作 上野紀子・絵

クリエイトグリーティングブック

こうのとりが

はるくんを

おとうさんの たくやさん

おかあさんの かおりさんに

とどけるために

ふなばしに むかって

とんでいました。

「はるくんが うまれる

2007ねん9がつ10にち

12じ4ふんまでには

まだ だいふ じかんも あるなあ。

ちょっと ひとやすみして いくかな。」

こうのとりは ずっと とびつづけて いたので

つかれて いたのです。





こうのとりは きれいな おはなばたけに
まいりました。
「きもちのいい おはなばたけだ。」
こうのとりが そういつて やすんでいる あいだに
はるくんは はいはいして
おはなばたけの さんぽに でかけました。

はるくんが おはなばたけに
はいって いくと そこに きれいな
ようせいの おうじょさまが あらわれました。
「ここからは ようせいの くにですよ。
ようせいで ないと はいれませんよ。」
はるくんは
なんの ことだか わかりません。
すると ようせいの おうじょさまは
「はるくんを
ようせいに して あげましょう。」
と いった つえを ふりました。





すると **はるくん**の せなかに
かわいらしい はねが はえました。
はねが はえと
そこに ちいさな はなの ようせいが あらわれました。
「わたしが ようせいの くいを あんないします。」
はるくんは
はなの ようせいの あとについて
おはなばたけの うえを とんで いました。

「ようせいの くいの おともだちに
しょうかいして あげましょう。」
はなの ようせいは はるくんを
みんなの ところに つれて きました。
「みなさん あたらしい ようせいの
はるくんですよー。」
おはなに たくさん ちいさな ようせいたちが
あつまって きました。
あたらしい おともだちが できて
みんな うれしそうです。
「はるくんの
かんげいかいを しましょう」
みんなが いいました。





ちいさな ようせいたちは
はるくんの ために
ジュースを つくろうと
たくさん くだものをもつて やって きました。
はるくんの ための ごちそうです。
「どうして みんな はじめて あったのに
こんなに しんせつに してくれるの？」
「だって はるくんの
よろこぶ かおが みたいんだもの。」
ちいさな ようせいたちが こたえました。
はるくんは うれしくて
ジュースを いっぱい のんで しまいました。

「それでは こんどは みんなで
かくれんぼを しましょう。
わたしが おにに なるから
みんな かかれて いいですよ。」
と はなの ようせいが いいました。

それを きくと みんなは あっと いうまに
おはなの かげに かくれしました。
はるくんも いそいで
おはなの かげに かくれしました。
でも みんな すぐに
はなの ようせいに みつかってしまいました。





「こんどは おにごっこを しましょう。」

はなの ようせいが いうと

「こんどは はるくんが

おにに なる。」

と はるくんが いいました。

「えっ はるくんが？」

みんなは おどろきました。

「どうして おになんかになるの？」

と みんなは はるくんに

たずねました。

「だって みんなの よろこぶ かおが みたいんだもの。」

と はるくんは こたえました。

みんなは はるくんが
こころの やさしい こだと おもいました。
それで ようせいの おうじよさまが
はるくんを ようせいに
したんだと おもいました。

ちいさな ようせいたち みんなは
そら たかく のぼりました。
とりさんが やって きて
びっくりぎょうてんしていました。
はるくんは たのしくて たのしくて
いつまでも とびまわって いました。





あまり とびまわって いたので
みんな つかれて しまいました。
ちいさな ようせいたちは
おはなの うえに まいおりて
おはなの つぼみの なかで おひるねを しました。
はるくんの まわりに みんな よりそって
しあわせそうに ねて しまいました。

しばらくねて いると
どこからか かすかな こえが きこえて きました。
「はるくん。」
「あっ こうのとりの こえだ。」
みんなも
「きこえる きこえる。」
と いいました。
はるくんが みあたらないので
こうのとりが しんぱいして さがして いるのです。
「もう いかなくては。」
はるくんは いいました。





「また あそびに きても いい？」

はるくんが たずねました。

「でも にんげんになつたら

ようせいで なくなっちゃうから

わたしたちの ことなんて きっと わすれちゃうよ。」

ちいさな ようせいたちが いいました。

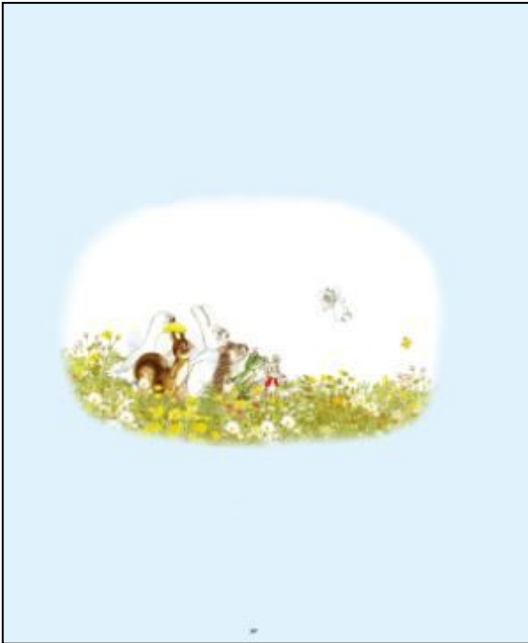
「ぜったいに わすれない！」

はるくんは おおきな こえで いいました。

「さようなら また くるね。」

はるくんは
こうのとりの こえの する ほうへ
ようせいの くにおはなばたけから
でて きました。
すると はるくんの
せなかの はねが きえました。
「さようなら また あそびに きてね。」
ちいさな ようせいたちは
はるくんに てを ふりました。





はるくんが いって しまうと
ちいさな ようせいたちは
「はるくんは
わたしたちの ことなんか
すぐに わすれちゃうよ。
もう ようせいじゃあ ないんだから。」
「そうだよね。はねが ないんだものね。」
と かなしそうに いいました。

すると そこに また
ようせいの おうじよさまが あらわれました。
そして いいました。
「だいじょうぶ。はるくんは
こころが ようせいに なりましたからね。
はねなんか なくても いつまでも
みんなの ことを わすれませんよ。」
ちいさな ようせいたちは あんしんしました。
「そうだよ。はるくんは
ようせいの こころを もった
ステキな にんげんになるよ。」
「そうすれば きっと また あそびに きて くれるよ。」





はるくん
ようせいの ころろ わすれないでね！

はるくんは
くらもちレディースクリニックの
くらもちせんせいの おかげで
しんちょう 47せんち たいじゅう 3002グラムで
たんじょうしたのです。

パパと ママは
はるくんが うまれて だいかんげきでした。

おじいちゃん おばあちゃんが
はるくんの たんじょうを
おいわいして くれました。

それを みとどけると こうのとりは
まんぞくそうな かおを して かえって いました。